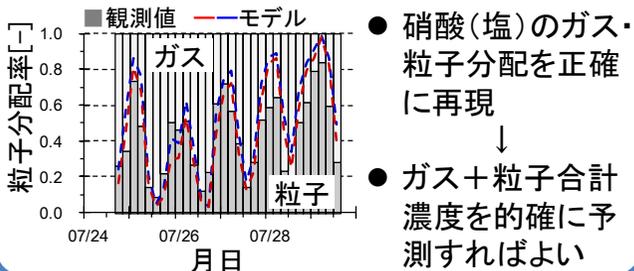


わが国都市部のPM_{2.5}に対する大気質モデルの妥当性と予測誤差の評価

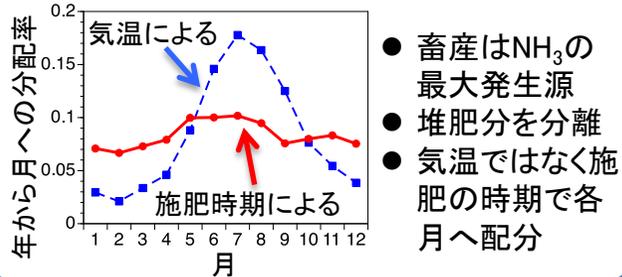
- 現状の大気質モデルは、PM_{2.5}対策検討に使用するには再現性が不十分
- 観測、発生源、モデルの三分野が協働して、特に誤差の大きい硝酸塩と有機物の改善策を検討
- 成分濃度の予測精度を改善、対策事業における検討項目を提示

硝酸塩の改善策

ガス・粒子分配モデルの評価



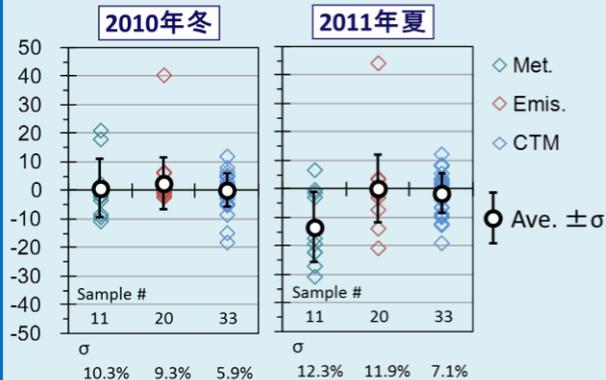
畜産業からのアンモニア発生量



感度解析で濃度制御要因を抽出

- 要因別に解析し高感度の要因を抽出
↓
- NH₃発生量季節変化(上の結果)とガス沈着速度の増大が、硝酸塩濃度の過大予測改善に効果的

大気質モデルの予測誤差 (ばらつき)



● 入力条件やモデル構成を変えても、多くの場合PM_{2.5}濃度の計算結果は10%程度しか変わらない
↓

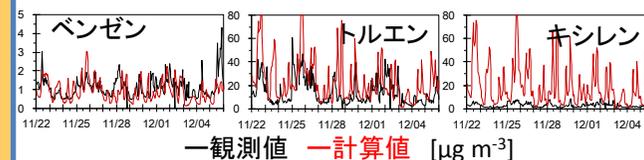
- 再現性改善には他の方策が必要

有機物(有機炭素)の改善策

捕集フィルタへのVOC吸着影響



二次有機粒子原因物質の検証



SVOC・凝縮性ダストの排出量推計

